

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 3ユニット/3階ユニット

事業所番号	2793300084		
法人名	株式会社 小池介護サービス		
事業所名	グループホーム花園南		
所在地	大阪市西成区花園南1-13-24		
自己評価作成日	令和6年9月24日	評価結果市町村受理日	令和6年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和6年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の利用者様に合わせて日常生活作りを大切にしています。毎朝朝礼・ラジオ体操・歌を歌いながらの足上げ体操・そして3階のモットー「1に笑顔・2に笑顔・3・4がなくて5に笑顔」みんなで元気言って1日が始まります。コロナの事もあり本来は外出支援に力を入れていたのですが思うように支援できなく残念に思っています。ホーム内でできる事をスタッフと考えながら個別の買い物・散歩・行事の催し物など工夫して取り組んでいます。特に皆様食事を楽しみにされているので利用者様の要望の多い「にぎり寿司」「うな丼」「ちらし寿司」「ラーメン」等を誕生日やイベントの時に提供しています。自立支援にも力を入れています。食後の洗い物・後片付け・洗濯たたみ・フロアーの掃除など利用者様が率先して行っています。スタッフも一緒に隣で何気ない会話を・世界情勢など冗談と笑いで楽しみながら日々の

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人(小池介護サービス)は2011年に高齢介護事業に参加して以来、大阪市内に4箇所のグループホームを運営している。開設当初から勤務して13年が経過した管理者の他にも、永年勤続(10年以上勤務)の職員(8名)が多く在籍している。利用者は食後の洗い物、片付け、洗濯、掃除等役割を持ち、連携している地域の商店街を活用して利用者がお金を持参して清算まで行う買い物には職員が見守りの中で自立支援をフォローしている。外国籍3名(フィリピン)の職員にはお薬袋にローマ字記載し、また、資格の取得研修等費用面での配慮がある。職員は少ない費用の食費を工夫して誕生日や季節の行事食に工夫を凝らして食事を楽しいものになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【本評価結果は、3ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【3ユニット総の外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をタイムカードの上に掲げ、出勤時必ず見るようにしています。毎日の業務を通して方針を共有し、介護サービスに反映させるよう話し合っています。朝礼の時必ず理念を利用者様と共有しています。	法人の理念の他、事業所では独自の運営理念を3項目「笑顔で優しく・主体性の尊重・地域の方とともに、」を作成し、玄関や3階のタイムカードの上に掲示している。職員は朝礼時に唱和を行いケアの中での振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括・ケースワーカー・地域との交流に努めています。自治会に加入。居宅支援センターとの集まりで情報交換をしています。	自治会に加入し町会の回覧板で情報を入手している。地域行事の夏祭りは中止となり、地域の清掃、小学校の運動会見学に参加している。ボランティアの訪問を受けてオカリナの演奏、民謡等を楽しんでいる。今後は集会所で行われているふれあい喫茶に参加の予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアを通じ、ホームに来て頂いた際、理解支援の方法を提案しています。地域ケア会議等積極的に参加し、地域の行事に施設を利用して頂くよう提案させて頂いたり地域貢献できるよう努力しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括センターの職員、町会長、民生委員、利用者、家族の参加のもとで2ヶ月毎に実施しています。会議ではホームの運営状況や行事、職員の研修内容や避難訓練の予定等を説明しています。コロナ感染者が何回か出たので思うようにできていません。	会議は奇数月に対面開催を予定していたが諸事情で書面開催となり、対面開催は1回となっている。行事等活動内容、研修報告が為され、出席の利用者(3・4名)から意見や要望を聞いてサービスに反映している。議事録は全関係者に郵送・手渡している。	出席者に利用者が多数参加しているが、地域住民の出席が少ない。11月の対面会議以降は地域の婦人部や老人会への呼びかけを行い、更に参加人数の拡充をはかり多方面からの意見収集等、会議の目的に添っての充実を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の担当職員とは相談や情報交換を実施してサービス向上に取り組んでいます。	区の介護保険課、保健福祉課には公的扶助者が多く、書類の提出等で訪問したり、急ぐ案件では電話で相談したりし、密にコンタクトしている。また、国の制度変更時には改めて説明を受ける等で連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1年に4回の身体拘束廃止委員会を開催し、その際に玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアとは何かを正しく理解するように努めています。家族様と身体拘束について、話し合いの場を持てるように心がけています。	法人のマニュアル、指針があり身体拘束適正化委員会を3か月ごとに開催している。身体拘束研修では、強い言葉を使わないように言葉の変換の仕方を事例で検討し、議事録は回覧して感想文を提出している。玄関は安全上施錠しているが、ユニット間は職員と共に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスにも配慮し、心に余裕を持ち利用者と接することができるよう配慮し防止に努めています。年4回虐待防止委員会を開催しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	利用者の中に成年後見制度やあんしんサポートを活用している方がいるので機会があるごとに話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居に際しての説明は充分行っている。利用者や家族の疑問点は契約前、契約時に話し合い理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会だけではなく介護計画作成時にも話し合い、家族の思いや希望、不満を表せるように対応しています。又、意見箱も設置しています。感染防止のためラインやビデオ通話等で家族様と共有しています。	面会は居室にて自由に会うことができる。希望があれば、オンライン通話も取り入れている。最近家族の希望により、面会時に駐車場にスペースを空けて家族が車で来訪しやすく配慮した事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行った際に職員の意見を聞き、又、提案はその都度聴いてサービスに反映させています。個別に相談、意見を聞く機会をもうけています。	毎月開催される職員ミーティング・フロア会議の中では、カンファレンスを行い帰宅願望の利用者の対応やエンシュアの利用者のとりのつけ方に工夫した事例がある。外国籍の職員(3名)には薬袋にローマ字で表記をし理解しやすくしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう研修等に参加できるような体制作りをしています。スキルアップの為の長期休暇届けにも対応し、向上心を持って働けるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修の機会を多く「緊急時対応」「認知症」「感染症」のテーマについても研修を受講しています。採用研修も実施しています。外部研修もこちらから選ぶのではなく、職員が受けたい研修を受けられるようにし、内部研修の充実に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内にあるグループホームの交流だけではなく、同区内のグループホーム同士の自主的な連絡会に参加し、情報交換や交流を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者とのコミュニケーションを大切にしています。その中から出てくる言語、行動を把握しながら安心感を持って頂けるように関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には定期的に、お手紙を送り本人の生活状況をお知らせしています。手紙以外にも面会時に不安事を相談できる関係作りを築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴など家族から話を聞き本人が生活していく上で何を必要としているか優先すべきサービスを見極め対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活していく上で共に楽しみ悩み一緒に生活している関係であるように、一人ひとりの個性がホームでも活かせるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との信頼関係を大切にしていきながら情報交換が出来やすい関係を築いています。又、どのように支えていくか共に考え意見交換しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡、友人の来訪などの継続、利用者の声を聴き馴染みの店等に行くことで知人との関係が途切れないよう支援に努めています。	遠方の親戚には電話や手紙代筆の支援を行い、年賀状は職員がポストに投函している。馴染みの喫茶、スーパー・コンビニエンスストアへの買い物に同行支援を行い、地域の人々との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフを交えてのレクリエーション、散歩、買い物など利用者同士の関わりを大切にしています。スタッフが交わることなく個々が築いていけるような人間関係作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても近くの来られた際はぜひお寄り下さい等の言葉を必ず伝え訪問しやすいよう配慮しています。又、相談があった時は協力し必要であれば他施設の紹介もしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から一人ひとりの思いや希望の把握につためています。困難な場合は日頃から本人の様子を観察、本人の気持ちになって何を望んでいるか、どのような支援が必要なのかを話し合い検討しています。	契約時には、以前のケアマネジャー、本人、家族から利用者の生活歴を聴き取り、フェイスシートに記録して職員は共有している。日々の生活の中で新たに知りえた情報は生活記録や申し送りノートに記録しそれを基にカンファレンスを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームに入所するまでの生活歴は家族・支援者に聞き、利用者が今まで、築き上げた生活、自分らしく暮らしていけるように支援していきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、その中で得た情報を職員で意見交換を行い現状の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を観察し、新しく得た利用者の情報・思いなどを介護計画に取り入れカンファレンスには、利用者にも同席して頂き、その人らしい介護計画作成に取り組んでいます。モニタリングに関しては新たな要望等踏まえながら実施しています。	介護計画は短期6か月、長期1年ごとに見直しを行っている。利用者が同席するカンファレンス、3か月に1回のモニタリングで点検している。計画の変更時には身体的なことを事前に医師や看護師から聞き取りを行い、計画に盛り込んでいる。出来上がった計画は家族に説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者別の生活記録、排泄、水分、入浴、バイタル等体調記録を充実させています。又、申し送りノートを利用し申し送り時に情報を共有しています。月1回ミーティングを行い実施や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体病院の医師と職員として配置されている看護師から医療と看護を受けています。地域のボランティアによりレクリエーションの支援を受けています。又、家族が宿泊できる部屋も確保されています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と一緒に買い物に外出しています。スーパーに職員と行った際には利用者が金銭のやりとりができるように又、外出時に新しい人間関係が作れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、母体病院の医師による往診を受けています。診療科目によっては入居前よりかかりつけの医療機関から、引き続き医療を受けている利用者がいます。	母体病院が事業所の協力医となっており、外科、内科、整形外科、胃腸、肛門、理学療法、リハビリテーションを診療科目にあげほとんどの疾患に対応している。精神科、歯科、皮膚科の訪問もあり必要な人は受診している。ほかの専門科に通院の場合は事業所から同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院の職員として配置されている看護師を通じ週1回医療連携をとっています。月2回の小池外科往診時の際の個々の利用者の体調や様子を伝え適切な受診を受けれるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	母体病院からの情報提供以外に日々の生活歴等を外来受診の際に出来るだけ伝えていきます。又、入院した際は既往歴や現在治療中の病気、生活歴を詳しく伝え早期に退院できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族には看取りの実施の方針を説明し、同意書をとっています。重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から利用者や家族の意向を聞き、状況の変化と共に利用者や家族、ケースワーカー、医師、ホームとの話し合いを行い意向の確認をし、地域の関係者と共に支援に取り組んでいます。	看取りの希望があれば、契約して介護計画書に記載し、希望に沿った看取りができるように努めている。研修は法人内看護師から講義や現場で指導を受けている。事例が終了した後は振り返りのカンファレンスをもち反省点や思い出を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で緊急時の対応、応急手当、初期対応の研修、訓練をしています。又消防士による心肺蘇生法やAEDの訓練を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、年2回消防職員指導のもと火災避難訓練を実施しています。非常・災害時の食料と水の備蓄をしています。又、地域の災害対策にも参加を行い地域との協力体制に取り組んでいます。	法定の火災避難訓練は1回は消防サポートセンターの指導を受けて、もう1回はその指導通りの方法で自主訓練を行い、ほかに水害、地震の訓練も行っている。備蓄は5階に保管、BCP(事業継続計画)はできているので、今後それに沿った訓練の予定。有事の際に備えて地域の商店を利用することでつながりを強めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は失礼のないように心がけ安心できるような言葉使い明るく親しみやすい笑顔雰囲気です。年1回プライバシー保護について研修を実施しています。そして認知症を良く理解し、決して否定しないようにしています。	研修で接遇や言葉遣いを学んでいるが、あまり問題になるような事例はなく、利用者からも「みんな優しい」との声が聞かれた。利用者のことを話す場合は、聞こえないような場所で個人名ではなく部屋番号を使うなど気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを大切に信頼関係を築き利用者の思い希望を自己決定できる環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護していく中で何が大事で何を優先すべきか話し合い利用者に安心して生活していただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の散髪、入浴時は利用者と服装を選び自己決定できるようにしています。行事の際は希望に応じてお化粧などもしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前と形態が代わり出来上がった食品を温めて提供するようになりました。いまのように利用者様の要望に答え難くなっています。そんな中でも喜んで頂けるようにスタッフと相談しながら工夫して支援しています。	昨年、法人都合で変更になったが、その中でも、できるだけ手作り感を出そうと、炊飯、汁は毎日、事業所独自で調理し副菜なども手を加えて工夫している。利用者は主に下膳、食器洗いなどできることで参加している。誕生日は本人希望、時には出前で寿司をとったり食事が楽しみなものになるように頑張っている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者に対し、食事量、水分量を確認し記録しています。又、その日の状態を把握しこまめな水分補給、食事が食べにくそうな利用者には食事形態、食器などを工夫したりして支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週木曜日の歯科往診を参考の個々の状態に応じ、毎食後の口腔ケア、夕食後の薬剤による義歯洗浄を徹底しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しています。又、トイレ介助もコミュニケーションの1つと考え安心して排泄ができる能力に応じて排泄の自立に向けた支援をしています。	できるだけ座位の排泄を心がけ、前傾姿勢がとれやすいバーをトイレ内に設置している。夜間もポータブルトイレや夜間のみオムツの使用はなく、ひとり一人に合った時間をみて誘導やパット等の交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	母体病院と連携し、毎日の排泄の記録をし、排泄の把握に努め便秘予防をしています。食事でも野菜を多く取り入れる等バランスの良い食事作りをしています。夕食時はヨーグルトを提供、乳製品を多く摂り便秘の方には毎朝人参ジュースを飲んで頂いています。またボールなどを使い腹圧を使った運動などにも力を入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりがゆっくり入浴できるように入浴時間など決めず、ゆとりある入浴を心がけています。入浴中の利用者とのコミュニケーションを大切に、楽しく入浴できるように支援しています。又、利用者が望めば同性対応も支援しています。	一般家庭用の浴室で手すり、シャワーキャリ、シャワーチェアなどを使用している。浴槽をまたぐのに不安がある人も男性職員の手があれば入浴ができ、ふつうは週3回、拒否その他の理由があっても週1、2回は入浴ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズム、体調面も考え安心して眠れるように支援しています。眠れない利用者とは一緒にお茶を飲んだり話することで不安を取りのぞき安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	母体である小池外科と医療連携をとっており、薬の目的や副作用、用法や用量について薬剤師の指導を受けています。服薬時担当スタッフを決めて、服薬後に印鑑を押し再度の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのコミュニケーションなどで笑顔ある時間を大切にしています。生活歴などを把握した上で個々を生かした楽しみ役割を取り入れ自信や張り合いのある生活をしていただけるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援に力を入れてまコロナ感染者が時々出た為思うように支援出来ない事が本当に残念です。	現在は希望がある人(全体で7~8人)には近隣の散歩や買い物には応じている。新型コロナの感染の様子を見ながら以前のようにふれあい喫茶や全体での外出など積極的な支援をしていきたいと考えている。家族との外出で出かける例は今もある	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際は利用者と同行し利用者が清算するように支援しています。利用者の希望を聞き、お金を所持し買い物にいけるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話しをしたいと希望があれば、いつでも電話できるようにしています。書く事の得意な利用者には便箋とペンを貸出し、いつでも書くことができるようにし家族とやりとりができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には利用者スタッフが一緒に作成して作品を飾ったり季節が分かるように春夏秋冬に応じた飾り付をしています。又、イベントなどの後には新聞を作り利用者と一緒に見て楽しめるような利用者にとって温もりのある空間になっています。	フロアは3～5階なので日当たりと眺めがよく、熱帯魚やミニウサギがいて生活のぬくもりが感じられる。大きな鏡を掲げて見通しを助けている。大きなソファもあり、食席もなんとなく定位置があるようなのでそれを尊重している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が思い思いの場所でくつろげるように席を決めることなく自由に座れるようにしています。ソファも設置しておりゆっくり談話できるスペースを設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはホームが提供しているベッド等以外に利用者が持ち込んだ整理タンス、鏡台があり利用者が安心して過ごせる個性的な居室になっています。又、思い出のある衣類、写真・仏壇等安心して過ごせるよう工夫して支援しています。	居室は8.5平米でいろいろ持ち込んでいる部屋や簡素な部屋など人それぞれである。以前作ったレース編みやパッチワークの作品や、阪神タイガースのグッズがたくさん置かれていたり、人それぞれの好みが見られた部屋であった	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、分かる事を把握した上で立位が長時間困難の方には椅子に座りながらの食後の片づけ、一人ひとりに応じて意欲、自信に繋がるような支援をしています。		